

○ひとりひとりが輝く未来に向けて○

第15回精神障害者自立支援活動賞 (リカバリー活動賞) 募集のお知らせ

認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構 (コンボ) では、精神障害者の社会参加や自立に向けて一生懸命に取り組む個人やグループの活動を支援する「第 15 回 精神障害者自立支援活動賞 (通称: リカバリー活動賞) 〜ひとりひとりが輝く未来に向けて〜」の募集を行います。

設立主旨

- 精神障害のある人それぞれの社会参加と自立、リカバリー実現に向けた支援活動 (リカバリー志向活動) を積極的に行い、多くの当事者・支援者・関係者のモデルとなる顕著に優れた活動を行っている個人またはグループを表彰し、応援します。
- この賞の受賞を通して、独自の優れた活動により精神保健福祉の支援活動の発展に貢献する方々の姿を広く社会に紹介するとともに、優れた支援のモデルを示すことにより、日本の精神保健福祉医療と社会の環境整備と充実に寄与すること、あわせてその活動によって当事者がリカバリーする姿を社会に示し、精神障害に対する理解を深める一助になることを目的にします。

応募資格

- 当事者部門** ▶ 精神障害のある人の社会参加と自立、リカバリー実現に向けた支援活動 (リカバリー志向活動) を、3 年以上にわたって行っている当事者の方、グループ・団体
- 支援者部門** ▶ 精神障害のある人の社会参加と自立、リカバリー実現に向けた支援活動 (リカバリー志向活動) を、3 年以上にわたって行っている個人、グループ・団体

※ 氏名の公表及び写真・映像等についてインターネットを含む各種メディアによる紹介をご承諾いただける方に限ります。

※ また、NPO 法人地域精神保健福祉機構 (コンボ) の「リカバリー志向活動パートナー」に就任していただきます。受賞後 1 年の間、コンボの諸活動 (こころの元気+、リカバリー全国フォーラム等) に「パートナー」としてご参加いただき、受賞した活動を社会に広めることにご協力をいただける方に限ります。 ※ 法人格の有無は問いません。

応募期間

2019 年 11 月 1 日 (金) ~ 2019 年 12 月 31 日 (火)

選考基準

一過性ではなく
継続的な
活動であること

社会と
精神保健福祉医療の
環境改善に寄与する
活動であること

精神障害のある人の
地域での自立と社会参加
リカバリーを支援する
活動であること

優れた支援モデルとして
将来への期待を有する
活動であること

独自性のある
活動であること

政治的、宗教的、思想的に
著しく偏っていない
活動であること

コンボが目ざす目標や
活動のミッション等の
基本的な価値観を
共有していること

審査の内容および結果に
関するお問い合わせには
応じかねますので、
ご了承ください。

- 選考は選考委員会を設けて行います。選考委員は、精神保健福祉の分野で活躍をされている学識経験者・支援者・当事者ほかで構成します。
- 受賞者には主催者から直接、2 月下旬までに文書で代表者宛に通知します。

表彰・副賞

表彰

各部門 1 組の
個人またはグループ

表彰式

東京都内で
2020 年 3 月に実施予定

表彰状・副賞・パートナー活動

各部門、副賞 10 万円

受賞後 1 年の間、コンボの「リカバリー志向活動パートナー」にご就任していただき、コンボの諸活動（こころの元気+、リカバリー全国フォーラムなど）の様々な機会に「パートナー」としてご参加いただけます。
また、受賞した活動を講演や誌面、ホームページで社会に広める活動にご協力させていただきます。

応募方法

● コンボのホームページの応募サイト https://www.comhbo.net/?page_id=4299 をご確認の上、応募フォームからご応募ください。

● 活動資料の添付

・現在までの活動を判断するうえで参考となる代表的な資料数点（活動記録、新聞・雑誌の切り抜きなど／動画などがあれば）を応募サイトにアップしてください

・支援団体については、団体の会則、役員名簿、会計報告書などを添付してください

● 応募サイトからの送信

・申し込みいただいた書類は返却いたしません



応募サイト

https://www.comhbo.net/?page_id=4299

※ 応募サイトの使用方法が分からない場合は、コンボ事務局にお問い合わせ下さい

※ 申込書受理後、必要に応じてヒアリング（聞き取り調査）や追加資料の提出をお願いすることもあります。

受賞者紹介（第 14 回）

当事者 部門



曾根 博さん
〔滋賀県高島市〕

1961 年に 16 歳で統合失調症を発症し、17 年間入院を繰り返す。1978 年に 33 歳で最終退院した後は結婚し、同じ統合失調症の姉を支えとともに、患者家族会の運営、家族会のネットワークづくり、NPO 法人の立ち上げと就労継続支援 B 型事業所の開設、教育機関における啓発活動、行政への働きかけなど、地元滋賀において幅広い活動を継続してきた。当事者としての経験を患者家族の支援にも生かし、地域の精神保健福祉向上を目指して道なき道を 40 年間進み続けてきた点が高く評価された。



塚本 正治さん
〔大阪府大阪市〕

26 歳でうつ病を発症。1993 年、32 歳の時に大阪精神障害者連絡会の設立に携わり、1999 年からは精神障害者地域生活支援センターの常勤職員として電話相談や面談相談にあたる。並行して音楽活動にも情熱を注ぎ、シンガーソングライターとしてこれまでに 10 枚の CD をリリース。ライブ活動に加え、障害者団体への応援歌の制作・贈呈、地元商店街への楽曲の提供、小・中学校での講演など地域での交流を深め、2013 年には詩作も開始。当事者支援の仕事地道に続けながら、音楽や詩を通じた独自の活動で啓発活動を推進してきた点が高く評価された。

支援者 部門



みんなで同じ風にあたらう
（愛称：みん風）
〔東京都〕

うつ病などの精神障害を持つ人と、医師、スタッフがともに走るプロジェクト。ニュースキャスターの安藤優子氏が、体を動かすことで不安が和らいだという自身の経験から、医師などの協力を得て 2012 年に活動を開始。身体機能の改善を目指すランニング練習会が、コミュニケーションの場にもなっており、精神障害を持つ人の社会参加を、体と心の両面から緩やかにサポートする独自性が高く評価された。



社会福祉法人さんかく広場
就労障がい者交流拠点事業
「りんく・じょい」
〔高知県高知市〕

「りんく・じょい」は、精神障害者の自立支援に取り組む社会福祉法人が、高知県からの委託を受け 2015 年に開始した事業。働く精神障害者に「愚痴をこぼせる」場や夕食の場、ファッション・メイクアップをはじめ様々な「生活を楽しむ技術」を習得する場を提供している。活動の企画や運営にあたるのは、地域の人や当事者も含めた「りんく・じょい助っ人会」。当事者、地域住民、企業が「楽しむこと」でつながる仕組みをつくり、生活の面から精神障害者の就労を支援する独自性が高く評価された。

後援
（申請中）

日本精神保健福祉連盟、全国精神保健福祉連絡協議会、全国精神保健福祉相談員会、日本精神科看護協会、日本精神保健福祉士協会、精神科作業療法協会、日本うつ病センター、全国精神障害者社会福祉事業者ネットワーク、日本精神神経科診療所協会、全国精神障害者地域生活支援協議会、全国精神保健職人会、全国精神保健福祉会連合会、全国精神障害者団体連合会、日本精神保健福祉事業連合



主催
お問い合わせ先



COMHBO 認定特定非営利活動法人
地域精神保健福祉機構
Community Mental Health & welfare Bonding Organization

〒272-0031 千葉県市川市平田 3-5-1 トノックスビル 2F
Tel.047-320-3870/Fax.047-320-3871 <https://comhbo.net>

担当：宇田川・寺本

特別協賛 *Leily* 日本イーライリリー株式会社